

令和元年度 グループホーム長寿の家事業報告

【令和元年度重点取り組み】

1. 入居者ニーズに沿った施設体制と、業務の効率化
2. 職員の意識改革と知識の向上
3. 開かれた施設を目指した地域参画

【運営実績】

1. 入居者ニーズに沿った体制確保と、業務の効率化

①入居者のADL向上に伴い、ニーズの変化に対応できる体制を確保します

→開設し9年を経過していることもあり、入居者の入れ替わりの多い年度であった。新規入居者はADLも高く、よりアクティブに過ごしたいとの意向が強く感じられたため、外出の機会を増やす、日替わりレクメニューの偏り防止を目的としたスケジュール導入等を行った

②業務の必要性に応じ、担当業務のスリム化を図ることで、充実したケア体制の確保に繋がります

→目的を明確にし、結果に至るまでのプロセスについて検討を重ねることをルーティン化した。これにより、業務を省略しすぎること無く、目の前の状況に適したケアを選択することができた

2. 職員の意識改革と知識の向上

①入居者のADL維持・向上や、認知症状におけるBPSDの特性を理解することで、安全・安心な支援を行います

→認知症の種類や病態を理解し、BPSDの予兆を早期に察知することで予防に努めることができた

②目的意識を持ち、根拠に基づいたケアを提供します

→日々慣例的に行われているケアについて、入居者の負担軽減、合理的な

業務の流れ、コスト削減の面から検討し、PDCAサイクルに基づいた改善が身に着いた

③全職員が役割を持つことで、職場における責任感と、地位確立による帰属意識を高めます

→個々の能力にあわせた役割をもたせ、進捗と結果のチェックを行うことで、組織のなかで自分が必要とされていることを理解できた

3. 開かれた施設を目指した地域参画

①認知症の専門集団として、地域に対して担うべき役割の周知を行います

→営業活動や近隣住民との交流を介して、困難事例の相談や見学希望者の訪問が相次いだ。また、退所者家族からの相談も継続して対応することで、地域から頼られる場面が増えたと実感した

②地域行事に施設から積極的に参加することで、認知症への理解を深め、また入居者が社会と繋がり続ける関係性を築くことに努めます

→西小学校音楽会、西地区防災訓練、文化の日展示会等に参加することで、慣れ親しんだ地域の知人との交流を持つことができた

外出レクや日常の散歩等を通じて地域の方とのコミュニケーションを図り、グループホームならではの生活スタイルを周知することができた